

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成31年3月14日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>教育機会を求めるより多くの者に、その機会を提供するための取組や課題について、次の事項に関する調査研究を実施する。</p> <p>ア. 広報・相談体制の充実に関すること ウ. 教育課程・指導上の工夫に関すること オ. 教職員の配置・研修に関すること カ. その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関すること</p> <p>【具体的な研究例】として</p> <p>ア. 生徒募集を行う際の効果的なチラシ等の作成 ウ. 高齢な義務教育未修了者への支援について 外国籍の者に関する支援方法 オ. 義務教育学校の特性を生かした校内での交流のあり方 カ. 交流活動等を通じた学習による今後の夜間学級のあり方</p>
調査研究のねらい	<p>主に下記の4点について取り組み、今後の夜間学級のあり方についての研究を推進する。</p> <p>さつき学園夜間学級は主に日本国籍、中国・台湾国籍、韓国・朝鮮国籍の方が在籍している。</p> <p>その中で、</p> <p>ア.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒募集を年に二回行っているが、通学可能な地域の義務教育を受けたい方々全てに発信できているとはいえない。ポスターやチラシ作成、広報手段について、多くの人に広く長期的に伝えることができる方法を研究する。 <p>ウ.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国籍、韓国・朝鮮国籍の生徒は高齢化がすすみ病気等に悩む生徒が多い。生徒指導や教育相談のみならず生活相談等、生徒に寄り添い学習できる環境を整えていくために必要な事柄や支援方法を研究する。 ・ 本夜間学級では中国から引揚帰国した生徒や新渡日の生徒が全体の約半数を占めている。近年、ネパール、パキスタン、インド国籍の生徒の入学が増加してきている。これらの生徒は日本の義務教育の学習内容を理解する以前に「日本語が話せない問題」を抱えており、これらの生徒の抱えている諸問題解決のための効果的な学習指導や生徒指導のあり方について研究していく。 ・ 若年層の生徒は高等学校進学を考えている。課外も含め、学習指導体制の充実を図る。

	<p>オ.</p> <ul style="list-style-type: none"> さつき学園夜間学級は、「施設一体型義務教育学校」として開校しており、学校・家庭・地域が力を合わせ、一体となつてすすめていく前期・後期の教育活動と関連付けた交流活動の位置づけについても研究を進める。 <p>カ.</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立中学校夜間学級の存在がそれを必要とする者、および社会全般に認知されているとはいいたい。そこで交流活動等を通して今後の夜間学級のあり方を研究していく。
調査研究の成果	<p>本年度の取組と成果</p> <p>上記のねらいを達成するため、以下の取組を行った。</p> <p>1. 【毎月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員会議の中で定例として「クラスの様子」を位置づけた。その中で、生徒一人ひとりの課題や長欠者についてどの教職員も同じスタンスで対応できるように共通理解ができた。会議後、定期的に長期欠席生徒には電話、郵送等による連絡を行うことで生徒から学校に連絡を入れた。 また、日本国籍、韓国・朝鮮国籍の生徒は高齢化がすすみ病気等に悩む生徒が多いため、生徒指導や教育相談のみならず生活相談、学習できる環境を整えるための在住市の市役所や病院への付き添い等、きめ細かな支援を生徒に寄り添い行った。 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度、家庭の事情でほとんど登校できなかった生徒が卒業に向けて意欲を見せた。 高齢のため、体中の骨がもろくなり入退院を繰り返している生徒からは定期的に連絡が入るようになった。 <p>関連のねらい(ウ)</p> <p>2. 【年3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度からの継続的な課題をふまえ今年度は外部人材による生活相談の時間を増やし、中国からの引揚帰国・新渡日生徒に対する指導を行うために翻訳及び通訳を依頼した。「日本語が話せない問題」を抱えている生徒の諸問題解決のために学習指導や生徒指導の補助もお願いした。 交流活動で2～3名の生徒が作文を読み上げる際、あらかじめ中国語で配布できるよう翻訳を依頼した。意見交流の場面では中国語で通訳し、中国籍生徒に指導助言を行っていた。 <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き生活に困窮していた引揚帰国者親子の通訳に

よる生活支援も行っており、夜間中学生が安心して授業を受けることができた。

【関連のねらい（ウ）】

- ・ ネパール国籍、パキスタン国籍、インド国籍生徒に対して共通に理解可能な言語を通じた意思疎通の機会を確保することができた。支援いただいた人材については、今後も必要に応じて依頼する予定である。

【週3回】

- ・ 外国籍の者に関する支援方法として、近年増えてきた高等学校進学対策として授業時間前に日本語による問題の読み取り方を含めた数学、英語等の個別指導を4名の外国籍生徒に対して行った。
- ・ 担当から保護者に連絡を入れ、進路についての話し合いを定期的に行った。

（成果）

- ・ 授業前に補習を受ける習慣が定着してきた。また、保護者とのきめ細かな意思疎通を図ることができた。今年度は受験するものはいなかったが、引き続き支援を行う予定である。

【関連のねらい（ウ）】

3. 【随時】

- ・ 今年度も守口市および他市の小学校、中学校、高等学校、社会人の団体との交流活動を積極的に進めた。この中で夜間中学生が自らを振り返り自分の思いを積極的に発言できるよう、交流資料に生徒が授業等で書いた作文を掲載した。
- ・ 「戦争体験（6学年との交流）」、「昼間の文化発表会への出演」、「8学年との交流」等、さつき学園内での交流活動を計画し、異年齢交流により互いに育つ環境構築に努めた。

（成果）

- ・ 年30回以上の交流を通じ、夜間中学生は自分の思いを語り自分の思いや考えをまとめることにより、学習への意欲や自信を高めることができた。また、交流後の感想から、交流相手にも学習の大切さや人権の大切さ、平和の大切さを感じていただいと分かった。

【関連のねらい（オ）】

4. 【年2回】

- ・ 募集活動を行う際、ポスター、チラシ等の活用を研究するため、夜間中学生にポスターのデザインを依頼した。
- （成果）
- ・ 多数の応募があり、最終的にはみんなのいいところを合わせたものに仕上がった。夜間中学生にとっても互いにいいところを認め合ういい機会となった。

【関連のねらい（ア）】

	<p>5. 【2～3月】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 1年間の学習活動のまとめとして、デジタル写真等を活用しながら、生徒文集「まなび」を作成し、学習や交流活動の成果の確認を行った。・ 「みんなで語り合う会」で生徒の主体的活動による意見交換を行った。講師には2～3名の生徒が作文を読み上げるので、あらかじめ中国語で配布できるよう翻訳を依頼した。 (成果)・ 意見交流の場面では中国語で通訳し、中国籍生徒に指導助言を行っていただいた。 <p><u>関連のねらい(カ)</u></p> <p><u>関連のねらい(ウ)</u></p>
--	---